

The Japan Bridge for International Governmental Organizations: J-BINGO at AGU

<プロジェクト・メンバー>

研究代表者

飯島泰裕^{†1}

Iijima Yasuhiro

研究分担者

米山明日香^{†1} 菊川人吾^{†2} 上野 亮^{†3}

Yoneyama Asuka, Kikukawa Jingo, Ueno Ryo

^{†1} 青山学院大学 社会情報学部

Aoyama Gakuin University School of Social Informatics

^{†2} 青山学院大学社会情報学部・客員教授／内閣府石原国務大臣室 秘書官

Aoyama Gakuin University School of Social Informatics, Visiting Professor /
Cabinet Office Ishihara Minister of State Office, Secretary to the Minister

^{†3} 青山学院大学社会情報学部 客員研究員

Aoyama Gakuin University School of Social Informatics, Visiting Researcher

キーワード：国際公務員，国際機関，キャリアプラン

Keywords : International civil servant, International organization, Career plans

1. プロジェクトの実施背景と目的

将来的に国際機関での日本人職員を増やすことが、日本全体としても喫緊の課題となってきた。そのため、学生時代から国際機関で働く日本人職員との接触機会や国際機関でのインターンシップ等の機会を設けることで、青山学院大学社会情報学部においても、国際機関職員候補となる人材を拡大していくことが必要である。そこで、2015年度より、学生の国際機関に対する興味や関心を高めること、国際機関を将来の就職先の一つとして、意識させることを通じ、最終的には国際機関で働く日本人を増やすことを目的として、関係機関の協力を得ながら、講演会等を実施して

きた。また、その効果を把握するため、アンケート調査を実施した。本稿では、こうした目的の下、実施してきたプロジェクトの進捗状況、今後の実施方針を報告する。

2. プロジェクトの進捗状況

2.1 2015年度の実施状況

2015年度については、社会情報学部1年生の前期必修科目「English Communication I」及び、後期必修科目「English Communication II」の授業内で、

表 1 2015 年度の講演会実施状況

回数 (実施日)	講師（当時の所属）
	タイトル
第 1 回 (2015/05/11)	菊川人吾（NPO 法人国際環境経済研究所 主席研究員）
	国際機関への架け橋（J-BINGO プロジェクト）
	～国際機関での日本のプレゼンス：多様なキャリアパスでアプローチしよう～
	佐竹博厚（外務省国連企画調整課国際機関人事センター 課長補佐）
第 2 回 (2015/07/06)	国際機関で働くには
	菊川穰（一般社団法人エル・システムジャパン 代表理事）
	途上国現場における国際機関の仕事。
	オーナーシップとパートナーシップの狭間で
第 3 回 (2015/10/22)	菊川人吾（NPO 法人国際環境経済研究所 主席研究員）
	日本政府代表部／交渉官から見た国際機関における事務局の機能
	～WTO/ITA（情報技術協定）拡大交渉や TBT 議長の経験からの一考察～
	小野智子（国際協力機構 人間開発部保健第二グループ 保健第四チーム 調査役）
第 4 回 (2015/12/03)	キャリア構築へのアプローチ：国際機関での経験から
	菊川人吾（NPO 法人国際環境経済研究所 主席研究員）
	APEC 会合での一コマから（Mitigating the impact of financial crisis）：国際会議でのふるまい方
	清谷典子（国際移住機関駐日事務所 Programme Manager）
第 4 回 (2015/12/03)	村上秀樹（国連工業開発機関東京投資・技術移転促進事務所 次長）
	菊川人吾（NPO 法人国際環境経済研究所 主席研究員）
講師 3 名によるシンポジウムを実施	

※敬称略

計 4 回の講演会を実施した。講演を依頼した講師及び講演タイトル等は表 1、講演会の様子は図 1～図 3 の通りである。なお、原則、計 4 回の講演は使用言語を英語とした。こうした講演の効果について、学生を対象としたアンケート調査にて確認したところ、国際機関で働くことに対し、43.9% の学生が「より興味が湧いた」と回答した。また、J-BINGO プロジェクトに対する意見として「なかなか本当に国際機関で働いている人に会う機会もなかったので一つの自分の進路として考えられてよかったから。」「国際機関について知るいい機会だったし、英語で講演してくれた



図 2 講演会の様子（2015 年度第 2 回講演会より）



図 1 講演会の様子（2015 年度第 1 回講演会より）



図 3 講演会の様子（2015 年度第 3 回講演会より）

のが新鮮でよかった。」との回答もあり、プロジェクト初年度としては、一定の成果を得られた。

2.2 2016年度の実施状況

2016年度についても、2015年度と同様

に、「English Communication I」及び「English Communication II」の授業内で、計4回、英語による講演会を実施した。講演を依頼した講師や講演タイトルなどは表2、講演会の様子は図4～図6の通りである。

表2 2016年度の講演会実施状況

回数 (実施日)	講師（当時の所属）
	タイトル
第1回 (2016/06/09)	萩野敦年（外務省国際機関人事センター 課長補佐） 菊川人吾（内閣府石原国務大臣室 秘書官、 NPO 法人国際環境経済研究所 主席研究員）
	国際機関をキャリアターゲットとして狙え！国際的に活躍しよう！
第2回 (2016/06/30)	田中伸男（笹川平和財団 理事長、国際エネルギー機関 前事務局長）
	国際機関で働くこと
第3回 (2016/10/06)	大須賀智子（UNICEF 東京事務所 パートナーシップ調整官）
	世界の舞台で活躍する—始まりは小さな一歩 (Working globally - it started with small steps)
第4回 (2016/11/24)	中井恒二郎（WFP 国連世界食糧計画日本事務所 政府連携担当官） 村上秀樹（国連工業開発機関東京投資・技術移転促進事務所 次長）
	講師2名及び米山准教授によるシンポジウムを実施

※敬称略

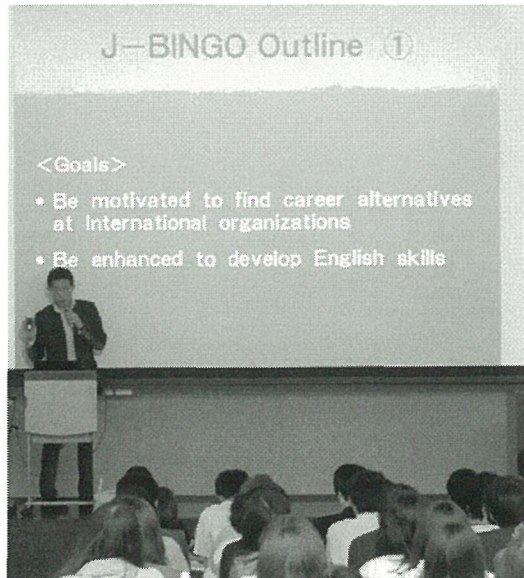


図4 講演会の様子（2016年度第1回講演会より）

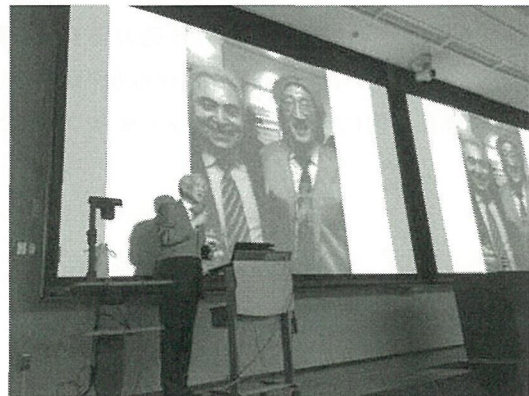


図5 講演会の様子（2016年度第2回講演会より）

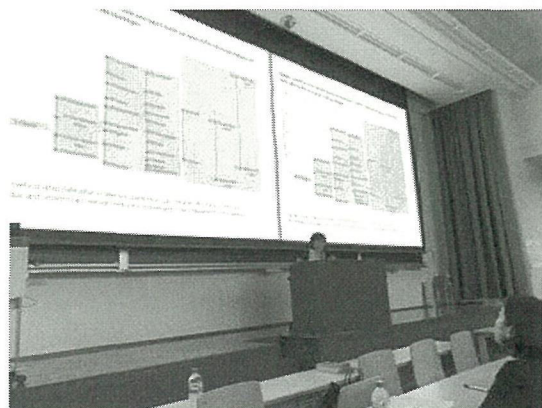


図6 講演会の様子（2016年度第3回講演会より）

また、2016年度は、社会情報学部2年生以上を対象とした前期科目「プロジェクト演習入門Ⅰ」及び、後期科目「プロジェクト演習入門Ⅱ」でも、「国際機関に対する日本の人的貢献の課題と対策を考えてみよう～日本にアジア拠点のある国際機関へのアプローチから始めよう～」と題し、J-BINGO プロジェクトを選択テーマの1つにした。ここでは、日本人の国際公務員の増大を解決すべき課題として、学生たちが6人程度のチームを編成し、課題解決に向けて必要となる知識や技術などを適宜学習、必要に応じ、外部への調査などを実施しながら、最終的には対応策の提案を行う予定である。前期は2チーム12名の学生がテーマに取り組んだ。後期は、前期の内容を踏まえ、前期の2チームを再編して結成された、1チーム5名の学生が、引き続きテーマに取り組んでいる。

3. 今後の実施方針

2016年度は、当初予定通り、English Communicationの授業内で、計4回の講演会を実施した。プロジェクト演習入門における取り組みとしては、授業最終回に実施予定のファイナルプレゼン

テーションにて、日本人の国際公務員の増大に向けた提案を行う。2017年度は、今年度と同様、計4回の講演会を実施、加えて、プロジェクト演習入門の選択テーマでも、J-BINGO プロジェクトを扱う予定である。それに加え、社会情報学部3年生以上を対象とした「プロジェクト演習Ⅰ」及び「プロジェクト演習Ⅱ」にて、国際機関へのインターンシップを実施する予定である。

【謝辞】

講演会の実施に当たり、ご講演頂きました講師の皆様方に、感謝の意を表します。なお、本研究は社会情報学研究センターによる研究プロジェクト「J-BINGO in AGU: Japan Bridge for International Governmental Organization in AGU」の成果の一部です。